

採用・育成戦略が奏功、成長スピード加速 先行投資前倒しへ

日総工産 清水竜一代表取締役社長に聞く



御社の強みは、
「当社が配属前の研修施設における
技能社員の
教育に注力
している。
先行投資費
用は掛かる
ものの、こ
れが定着率
や取引先か

ら「就業者・顧客双方の評
価を上げていくことが成長
の力ギとなる。入社後のケ
アや処遇改善など手厚い管
理体制を敷いているため、
同業に比べて定着率が高
い。最近では『2019年
オリコン顧客満足度ランキ
ング』の『製造派遣』ラン

「人育成するための施
設やカリキュラムの拡充、
システム投資がメインとな
る。現在、研修施設は全国
に9カ所あるが、施設の稼
働率を上げるだけでは限界
がある。取引先周辺のロケ
ーションや育成カリキュラ

企業名	日総工産
事業概要	製造系人材サービス（製造派遣、製造請負、職業紹介など）
上場日	2018/3/16
初値	4020円 (1対2株式分割前)

「以前から業界における知名度は高かったが、上場を機に一般への認知も広がった。人材確保の面で効果を実感している。また、公開企業として機関投資家や個人投資家の方からどう見えているかを意識した1年でもあった」

「競合他社と比べた際の
増）、営業利益27億7500万円（同54・1%増）へと上方修正した」

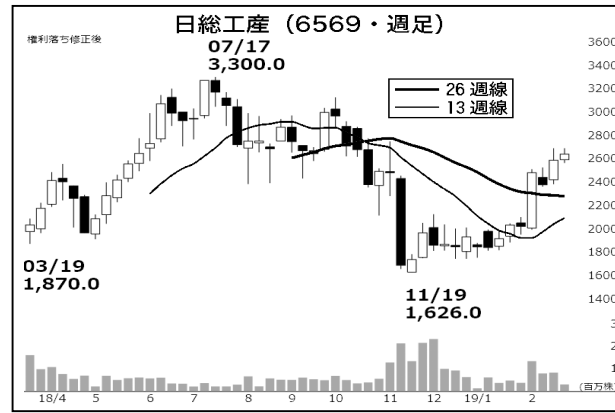
「外部環境による取引先の生産変動の影響はあまりない。例えば直近ではスマートフォン（スマホ）関連が減産傾向にある一方で、車載関連は設備投資が旺盛。研修をしっかりと行っているため、もともとスマホ関連の現場に配属していた人材を車載関連の現場に移すことなどで十分吸収でき

「今後の投資計画は、
「人を育成するための施設やカリキュラムの拡充、システム投資がメインとなる。現在、研修施設は全国に9カ所あるが、施設の稼働率を上げるだけでは限界がある。取引先周辺のロケーションや育成カリキュラ

「配当性は30%。ただ、収益が拡大すれば配当に回す原資は増えていく。また、中長期的な株価上昇もひとつの株主還元と考えている」

製造派遣・製造請負など製造系人材サービスを展開する日総工産（6569）。自動車関連メーカーや電子部品・デバイスメーカーをはじめ、多くの有力企業に人材を派遣している。
3月16日に新規上場から1年を迎える。これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望について清水竜一代表取締役社長に聞いた。

上場1年銘柄に注目



「昨今は先端技術への移行が加速し、製造現場では人の力量だけではなく、質を求める動きが広がっている。当社にとっては成長が促進される良いタイミングに差し掛かっている。また、AI（人工知能）やロボットの導入が進み、最近では設備保全ができるオペレーターや現場をマネジメントする工程管理者などのニーズが高まっている。当社はこうした人材の育成を2〜3年前から手掛けてきた。業績成長が予定以上に加速し、先行投資を当初計画より前倒しで行える環境が整ってきた」

「人に必要な設備などを考慮しながら、既存の建物を改修する形でさらに施設を増やす。また、AIなどを活用し、自社サイト経由の流入量増加を図る。昨年10月に開設した横浜鶴見センターでは、これまで蓄積してきた人事データと顧客データを活用した新たな採用の形に挑戦している。サイト集客力の強化や採用数の増加による、収益の押し上げ効果が期待される」

最後に株主還元策に対する考えをお願いします。
「配当性は30%。ただ、収益が拡大すれば配当に回す原資は増えていく。また、中長期的な株価上昇もひとつの株主還元と考えている」